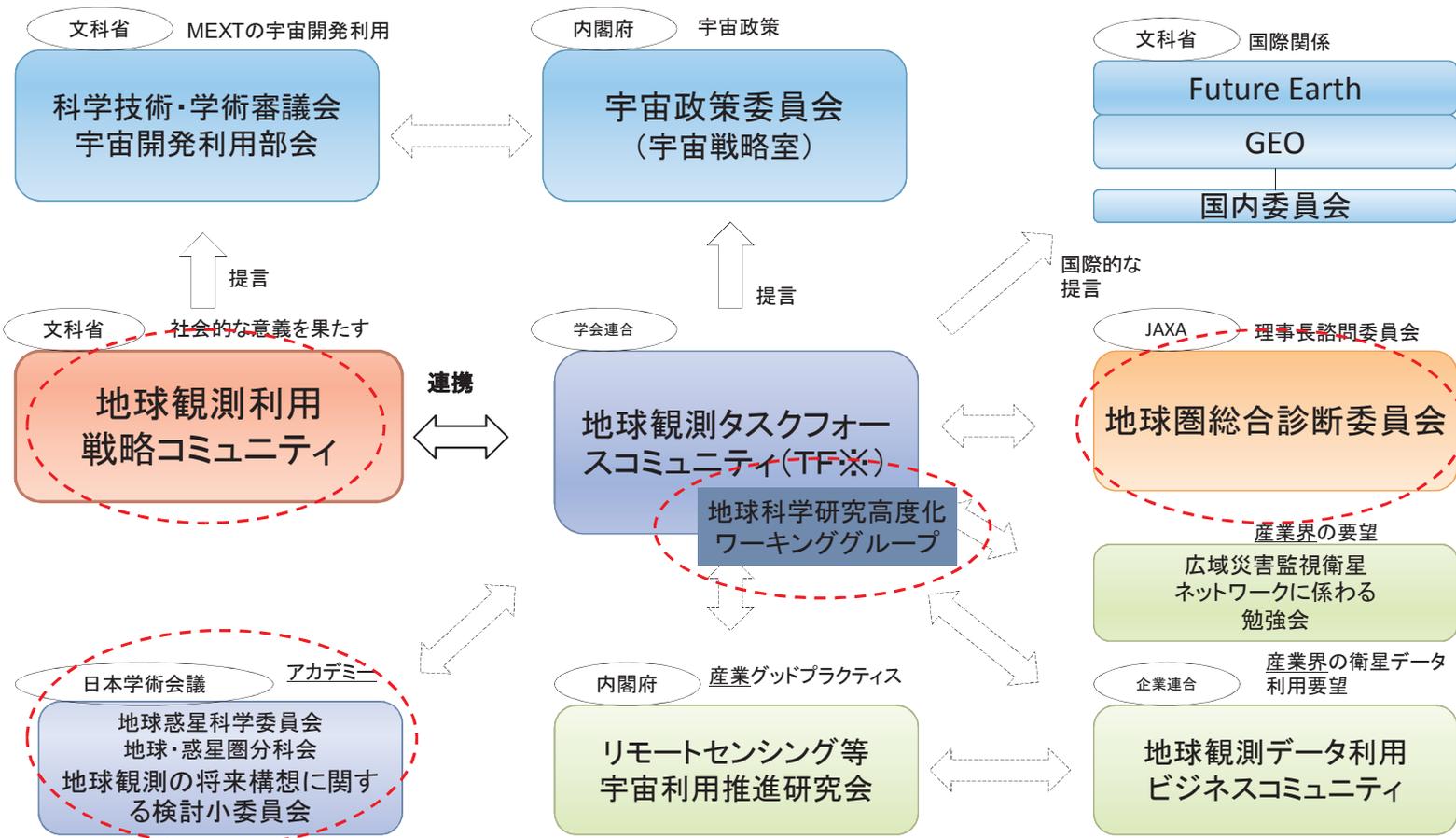


科学研究の視点での活動について

(一財)リモート・センシング技術センター
 福田 徹

我が国における地球観測コミュニティの相関図



※日本リモートセンシング学会、日本写真測量学会、日本海洋学会、日本地球惑星科学連合、日本活断層学会、日本農業気象学会、日本気象学会、日本沙漠学会、日本情報地質学会、日本雪氷学会、日本測地学会、日本大気化学会、日本地球化学会、日本地理学会、日本地震学会、計測自動制御学会、システム農学会、日本森林学会、水文・水資源学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、地理情報システム学会

JAXA 地球圏総合診断委員会

大気分科会、海域分科会、陸域分科会、ISS分科会
報告書を提出

日本学術会議 地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会 地球観測の将来構想に関する検討小委員会

我が国の地球衛星観測のあり方について(記録) 2014.9.5公表
<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kiroku/3-140905-1.pdf>

地球観測タスクフォースコミュニティ 地球科学研究高度化ワーキンググループ 活動中

MEXT 地球観測利用戦略コミュニティ

分科会を設置し活動中(2015年度まで)

- エネルギー分科会
- 食料(農業・水産)分科会
- 気候・環境・気象分科会
- 水資源(治水・利水)分科会
- 社会基盤分科会(社会開発・土地利用・宇宙人文学・GIS、火山、斜面災害 等)

2

論点

我が国の地球衛星観測のあり方について より

- ✓ 地球科学は、純粹科学的側面と実用科学的側面を併せ持つ基礎科学
- ✓ 地球衛星観測は、基礎科学の発展と応用技術による社会生活の向上の両者に貢献しており、両者は密接に繋がっている
- ✓ 利用者コミュニティがステークホルダーを含め巨大であり、多くの場合開発者と利用者は同一ではない
- ✓ 一つの衛星に対して、単一の目的を与えにくく、関係する機関の連携は複雑

我が国の地球衛星観測のあり方について より

今後の展望

- (1) 地球衛星観測の科学的価値・社会的価値の確認
持続的な技術開発、連続的な地球計測
- (2) 日本の先導分野と継続的な国際貢献の重要性
- (3) 観測データアーカイブ体制の構築
- (4) 地球観測コミュニティの連携強化
公平性・透明性・客観性
- (5) 人材育成の体制強化と理系リテラシー向上

(抜粋、文責: 福田)

4

まとめ

- 科学／研究開発と実利用の二元論を克服すべき
- 地球観測ミッションは本来的に多面性を持つものであり、公平性、透明性、客観性を持った調整メカニズムが必要
- 継続性の確保、持続的な研究開発、国際分担／貢献のあり方は国の政策として議論されるべき